

いま手にとっている 広報ふくちの意外と 知らないその裏側

広報ふくちは今号で100号、創刊から8年を迎えました。時代の流れの中で、多様な変化を繰り返してきましたが、歴代編集者が広報紙にける熱い思いはいつの時代も同じ。そこで、普段何気なく手にとって開く広報ふくちの裏側をのぞいて、みなさんにその思いを再度届けます。

12月号をピックアップ！
バックナンバーから浮かぶ
広報ふくちにける思い

旧町広報紙の歴史



昭和40年5月発行「赤池町時報」No.84
平成18年2月19日発行「あかいけ」最終号No.522

昭和25年、旧赤池町で公民館だよりを母体に「赤池町時報」創刊。B5版、全4ページ。最終号では60ページにおよぶ特集で郷土愛を伝えました。



昭和53年12月発行「金田町報」No.168
平成18年3月1日発行「かなだの風」最終号No.527

昭和36年に「金田町報」創刊。最終号では、町制施行から89年で幕を閉じた、金田町に対する愛のメッセージを街頭インタビューし、41件掲載。



昭和31年6月発行「村政だより」No.1
平成18年3月1日発行「ほうじょう」最終号No.245

昭和31年6月、旧方城町で「村政だより」創刊。8月に「町」になったため、次号から「町政便り」に。最終号はふじ湯の里の特集が生まれ、観光資源をアピール。

平 成18年4月から全町民を対象に、毎月1回(平成18年度は1日号)に加え、15日号を3回)、発行してきた広報ふくち。みなさんのお手元に届くその情報紙には、行政からのお知らせはもちろん、地域の話題やニュース、住民の笑顔を詰めています。中でも、広報ふくちがこだわりの「特集」です。ここでは広報ふくちの編集スタイルと「こだわり」を一部ご紹介いたします。

マを決めてから紙面の展開や取材相手などの構想を熟考。企画書を作成します。
読者目線の伝わる文章 行政の公文書のような文章では、楽しい話題も魅力が半減してしまいます。読者の目線で文章を何度も読み返しながらかつくり直します。
引きつけるレイアウト 広報紙の主要部分である文章をストレスなく読んでいただくためには、タイトルや写真などの配置、見せ方も重要です。読んでみたいと感じていただけるような、魅力的で見やすいレイアウトになるよう試行錯誤を重ねます。



広報ふくちNo.84
【特集：おもてなし】

町活性化に向けた「観光のまちづくり」に必要な要素「おもてなしの心」を特集。今はまだ観光地とはかけ離れた風土のこの町で、これから最も求められるその意識が醸成する手段を、模索しています。



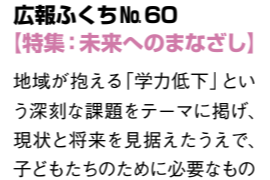
広報ふくちNo.96
【特集：岐路を駆ける鉄道】

平成の幕開けとともに生まれた、私たちの平成筑豊鉄道。人をつなぎ、地域を支え、日々ひた走るこの「地域の宝」が存続の岐路に立たされている現状を訴え、身近なマイルールと私たちの日常を見つめ直しています。



広報ふくちNo.72
【特集：笑顔でしわを増やそう】

高齢化社会とは切っても切り離せない「認知症」にスポットを当てた企画。重いテーマで暗い紙面になりがちですが、老化と真摯に向き合う人を紹介することで、逆に明るく描いています。



広報ふくちNo.60
【特集：未来へのまなざし】

地域が抱える「学力低下」という深刻な課題をテーマに掲げ、現状と将来を見据えたうえで、子どもたちのために必要なものとは「何か」を分析。大人が考えるべき課題を共有する紙面構成が練られています。



広報ふくちNo.48
【特集：招店街】

町に唯一残る金田商店街が、全盛期の約7分の1にまで商店数を減らし、存在が危ぶまれています。商店街は時代に合わないのだろうか…。地域や町における商店街の役割などを通じてその重要性を投げかけています。



広報ふくちNo.36
【特集：上野JAPAN】

400年以上の歴史を誇る国指定伝統的工芸品「上野焼」が、窮地に陥っている現状を訴えるとともに、打開策を打ち出そうと奮闘する陶芸家の姿を丁寧に取材。町の至宝を守るために、改めてその魅力を伝えています。



広報ふくちNo.24
【特集：方城大非常】

No.24のテーマは「命」。巻頭では99年前に起き、671人の犠牲者を出した日本史上最大の炭鉱爆発事故「方城大非常」を特集。巻末では飲酒運転の犠牲者を取り上げ、一貫して命の尊さを訴えています。



広報ふくちNo.10
【特集：合併再建】

企業でいえば倒産に当たる財政再建団体。過去にこの再建団体だった3町の合併で誕生した福智町は、全国唯一の珍しいケースだといわれています。その教訓を新町で生かすために、旧3町の原点を再見しています。

2013年 85～96号 2012年 73～84号 2011年 61～72号 2010年 49～60号 2009年 37～48号 2008年 25～36号 2007年 12～24号 2006年 1～11号



- 企画&情報収集** 多くのかたから寄せられた情報や町の動きなどを精査し、今一番何を伝えるべきか、どうしたら効果的に掲載できるかなどを考えます。
- 取材** 広報担当者が直接出向くよううい掛けています。現場の雰囲気や肌で感じ、記録ではなく、記憶に残る写真を撮ります。
- 編集** 文章を考え、画像を選び、編集専用パソコンを使って全ページをレイアウトします。
- 入稿** 編集したすべてのデータを印刷会社に渡します。
- 校正** 入稿したデータを印刷会社の一部試し刷り。見づらいところや写真の色味などをチェックし、場合によっては修正します。
- 印刷** 印刷会社で9千300部が印刷・製本されます。
- 納品** 広報ふくちの納品は毎月1日(土日祝日の場合は翌開行日になります)。各家庭配布分については、チラシの折り込みをシルバークンセンターのみなさんが行っています。
- 配布** 役場の全職員がそれぞれ行政組長のもとへ広報紙を届けて、各家庭への配布をお願いします。



広報「ふくち」の作りかた